

# 「産業遺産情報センター」の設置について（内閣官房・内閣府）

## 「産業遺産情報センター」設置検討の背景

- 平成27年7月、ユネスコ世界遺産委員会において、「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」が世界文化遺産として登録された。
- その際、世界遺産委員会において、「歴史全体についても理解できるインタープリテーション（展示）戦略」を策定するよう決議されたことを踏まえ、日本政府はインフォメーションセンターの設置などの適切な措置を当該戦略に盛り込む旨発言した。

### ※世界遺産委員会決議（抜粋）

- g) 推薦資産のプレゼンテーションのためのインタープリテーション（展示）戦略を策定し、各構成資産がいかに顕著な普遍的価値に貢献し産業化の1又は2以上の段階を反映しているかを特に強調すること。また、各サイトの歴史全体についても理解できるインタープリテーション（展示）戦略とすること。

## 「産業遺産情報センター」設置場所の検討結果

- 設置場所は、①構成資産が全国の8県11市にまたがること、②日本政府として設置を約束した経緯があること等から、全国の情報を集約して発信する拠点としてふさわしい、東京都内で検討。※総合的な情報センターとして23資産全体の世界遺産価値を中心に情報発信。
- 既存の国有財産を有効活用する観点から候補地を絞り込み、有識者による検討会の意見も踏まえ、総務省第二庁舎別館（新宿区若松町）の一部を展示スペースとして活用する方向で、関係府省連絡会議において方針決定。

### ○産業遺産情報センターに関する関係府省連絡会議

- 第1回 平成29年9月27日（水）
  - 第2回 平成29年12月12日（火）
- 【方針決定】

### ○産業遺産情報センターに関する検討会（有識者）

- 第1回 平成29年10月3日（火）
  - 第2回 平成29年10月31日（火）
  - 第3回 平成29年11月10日（金）
- 【報告書取りまとめ】

### 【総務省第二庁舎別館】

所在地	東京都新宿区若松町19-1
用途	事務所
竣工年	1978年（昭和53年）12月
構造	鉄筋コンクリート造 地上4階建て
建築面積	1,081㎡
延べ面積	2,781㎡

（うち1階・2階の一部を活用予定）



- 平成30年度に改修工事（内閣府において予算要求中。展示工事については平成31年度要求予定）を行い、平成31年度中を目途にオープンすることを目指す。

【参考】「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」（世界文化遺産）

世界文化遺産としての推薦

平成 26 年に日本政府として、「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」を世界文化遺産に推薦。イコモスの審査により、平成 27 年 5 月に名称を「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」に変更して「記載」勧告。同年 7 月、ユネスコ世界遺産委員会において「記載」決定。

- ・平成 26 年 1 月末 閣議了解の上、ユネスコ世界遺産センターに推薦書正式版を提出。
- ・平成 26 年 9 月下旬～10 月上旬 イコモス(国際記念物遺跡会議)による現地調査。
- ・平成 27 年 5 月 4 日 ユネスコ世界遺産センターからイコモスによる「記載」勧告の通知。
- ・平成 27 年 7 月 5 日 ユネスコ世界遺産委員会で世界遺産リストへの記載が決定。

資産の概要

- ・西洋から非西洋への産業化の移転が成功したことを証言する産業遺産群により構成されている。
- ・19世紀後半から20世紀初頭にかけて、日本は工業立国の土台を構築し、後に日本の基幹産業となる製鉄・製鋼、造船、石炭産業といった重工業において急速な産業化を成し遂げた。
- ・一連の産業遺産群は、製鉄・製鋼、造船、石炭産業という重工業分野において 1850 年代から 1910 年にかけて半世紀で西洋の技術が移転され、日本の伝統文化と融合し、実践と応用を経て産業システムとして構築される産業国家形成への道程を時系列に沿って証言している。

資産の構成 (8 県 11 市の 23 資産)

萩:①萩反射炉 ②恵美須ヶ鼻造船所跡 ③大板山たたら製鉄遺跡 ④萩城下町 ⑤松下村塾



鹿児島:⑥旧集成館 ⑦寺山炭窯跡 ⑧関吉の疎水溝 釜山:⑨釜山反射炉 釜石:⑩橋野鉄鉱山



佐賀:⑪三重津海軍所跡 長崎:⑫小菅修船場跡 ⑬三菱長崎造船所 ⑭同ジャイアント・カンチ  
第三船渠 レバークレーン



⑮同旧木型場

⑯同占勝閣

⑰高島炭坑

はしま  
⑱端島炭坑

⑲旧グラバー住宅



三池:⑳三池炭鉱・三池港 ㉑三角西港 八幡:㉒官営八幡製鐵所 ㉓遠賀川水源地ポンプ室

